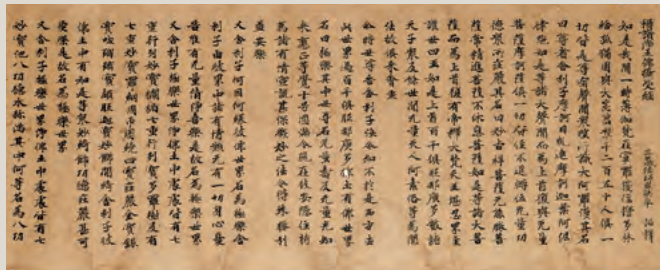


しょうさんじょうどぶつしょうじゆきりょう 称讃浄土仏撰受経

紙本墨書
1巻 縦26.0cm、長445.9cm
奈良時代(8世紀)
奈良・當麻寺蔵



『称讃浄土仏撰受経』(以下『称讃浄土経』)は、『阿弥陀経』の異訳で、釈迦が阿弥陀仏とその西方浄土を称讃し、阿弥陀仏の名号を持して極楽浄土に往生することを勧める、という經典。『阿弥陀経』は姚秦の鳩摩羅什の漢訳で、経文が簡明で美しいことから盛んに読誦され、浄土三部経の一つとして信仰を集めた。一方『称讃浄土経』は唐の玄奘の漢訳であり、詳細な訳を特徴としているが、同内容の『阿弥陀経』が経文の流麗さにおいて優れているせいか、唐・日本においてほとんど流布しなかったようである。

しかし一方で、奈良時代書写と目される『称讃浄土経』が多数存在しており、當麻寺伝来のものを含め、それらの多くは「中將姫願経」と称されている。これは、當麻曼荼羅を發願したとされる中將姫(横佩大臣の娘)が、出家前に『称讃浄土経』1000巻を書写した、というエピソードにちなんで付された名称である。

奈良時代の『称讃浄土経』といえば、天平宝字4年(760)の大量書写が目される。これは、同年六月に崩じた光明皇太后の七七忌(四十九日)のために、東大寺写経所において『称讃浄土経』1800巻を書写させたもので、さらに各国の僧尼にも同経を書写させ、阿弥陀浄土画像と共に供養させた。現存する「中將姫願経」の多くは、この時に書写された大量の『称讃浄土経』の一部である可能性が高いと考えられている。

當麻曼荼羅信仰が高まる中で、高貴な女性のために大量書写された浄土經典という成立背景が、浄土信仰に基づいて曼荼羅を作成した高貴な姫の伝承と結びついたのであろう。

齋木 涼子 (当館学芸部研究員)

◆特別展「當麻寺-極楽浄土へのあこがれ-」にて展示(4/6~5/6まで)

展示品の みどころ

じゅうにしんしょうりゅうぞう 十二神将立像 (12軀のうち申神・戌神)

木造、彩色
像高(申神)42.3cm (戌神)36.5cm
鎌倉時代(13世紀)
当館蔵

戦前まで神奈川県横浜市の太宰寺に伝来した十二神将像。当寺には本像が随侍していた薬師如来及び日光・月光菩薩像がいつも本尊として祀られている。



像高一尺五寸に満たない小像だが、各像の表情や身振りに少しずつ変化をつけながら軽妙にまとめる構成は巧みであり、鎌倉時代以降の十二神将像に時折みられる頭上に戴いた十二支獣の性格を面相に投影させる手法も効果をあげている。とりわけ申神(写真右)の口をへの字に引き結んだ威厳のある風貌と、頭上で兜の鍔に片足をかけ、頭を掻いておどけてみせる猿との対照は見事であり、ここに作者のゆたかな構想力をみることができる。

もっともすぐれた出来映えをしめす戌神(写真左)が、神将像には珍しい巻髪にあらわされる点も見逃せない。関西一円には類品のない、中世鎌倉の信仰が生み出した姿であるが、この戌神にまつわる興味深いエピソードが『吾妻鏡』に綴られている。

建保6年(1218)、執権北条義時は戌神の夢告を受けて、現在の鎌倉市二階堂の地に大倉薬師堂を建立、仏師運慶作の薬師如来を本尊に迎えた。すると、かの有名な鶴岡八幡宮での源実朝暗殺に際し、義時は実朝に随侍していたにもかかわらず、戌神の守護により難を逃れることができたという。巻髪の戌神は、時の執権を危難から救った靈験あらたかなほとけとして、近世に至るまで鎌倉人の厚い信仰を集めたのだ。

鎌倉宮(大塔宮)から北へ歩みを進めると、薬師堂ヶ谷の最奥に覺園寺がみえてくる。大倉薬師堂の後身としてその由緒を受け継ぐ寺院だ。茅葺きの薬師堂を中心に手つかずの自然が保持された清閑な境内は、中世鎌倉の面影をよく残しており、そこには義時の信仰がいまなお息づいている。筆者がおすすめする、一度は拝観に訪れたい鎌倉の名刹である。

山口 隆介 (当館学芸部研究員)

◆なら仏像館 名品展「珠玉の仏たち」にて展示中

開館日時(4月~6月)

■開館時間

午前9時30分~午後5時
・4月26日(金)以降の毎週金曜日は午後7時まで
※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(4月29日、5月6日は開館し、5月7日は休館)

■無料観覧日(名品展のみ)

5月5日(こどもの日)と5月18日(国際博物館の日)は、名品展の観覧料が無料となります。

観覧料金

特別展「當麻寺-極楽浄土へのあこがれ-」

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,200円	800円	500円
団体(前売)	1,000円	600円	300円

※団体は20名以上です。※前売券の販売は4月5日(金)まで
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

名品展

	一般	大学生	高校生以下
個人	500円	250円	無料
団体	400円	200円	無料

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、
障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

